



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

6. キュウリ炭疽病の発病に適した気象条件と降雨前の薬剤散布による防除効果

[要約]

キュウリ炭疽病の発生には、気温、降雨、葉の濡れ時間が関係しており、特に降雨の影響が大きい。このため降雨前の薬剤散布は、キュウリ炭疽病の防除に有効である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県内の夏秋露地キュウリ産地では、キュウリ炭疽病が多発し、果実被害及び葉や茎の枯死など被害が大きい。降雨前の薬剤散布は防除に有効と考えられるが、本病害に対する試験事例はみられず、その他病害においても事例は少ないことから防除指導に苦慮している。そこで、岡山県における本病害の発生要因を明らかにするとともに、最も影響の大きい降雨について、降雨前の薬剤散布の有効性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. キュウリ炭疽病の発病葉率の変化と日平均気温、日平均降水量、日葉の濡れ時間及び降雨日数の間には相関関係がある。このうち、降雨日数の相関係数が最も大きいことから、降雨の影響が大きい（表1）。
2. 降雨前の薬剤散布は、キュウリ炭疽病の発生を低く抑える（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 殺菌剤散布は、葉の裏側や新しく展開した葉にも必要十分な薬液が付着するよう、丁寧に行う。
2. 本試験は、岡山県赤磐市での試験データである。



[具体的データ]

表1 各種気象要因がキュウリ炭疽病の発生に及ぼす影響

気象要因	平均値	最低値	最高値	相関係数
日平均気温の平均値（℃）	29.0	25.8	30.9	-0.668 **
日降水量の平均値（mm）	2.6	0.0	14.2	0.687 **
日葉の濡れ時間の平均値（時間）	8.5	1.3	17.0	0.573 **
降雨日数（日）	0.9	0.0	3.0	0.727 **

注1) n=21 Spearmanの順位相関係数、**P<0.05

注2) 本病害の潜伏期間が5～7日であることを考慮し、3日間の気象要因と、5日後の発病率の増減値との相関を定量化した

注3) 気温、降雨については岡山農研内の気象観測装置のデータを利用し、葉の濡れについては、葉面濡れセンサー（PHYTOS-31 METER製）によるデータを利用した

注4) 気象は、日平均気温、日葉の濡れ時間及び日降水量の3日間の平均値、及び3日間の降雨日数とした発病率の増減は、各調査日の前回調査日からの発病率の増減値を算出した

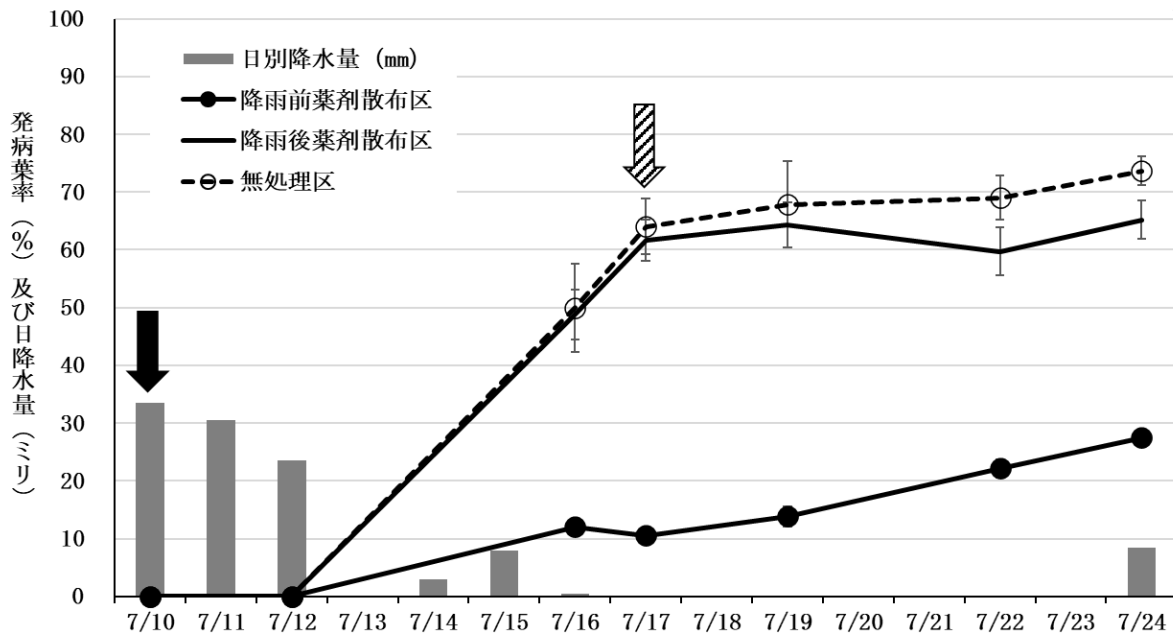


図1 降雨前の薬剤散布がキュウリ炭疽病の発生に及ぼす影響

注1) エラーバー：標準誤差 試験区：1区7株 3反復

注2) 降雨前薬剤散布は、薬剤散布の約3時間後に1mm/h程度の降雨があり、さらに約6時間後に雨脚が強まった

注3) 試験は令和6年7月10日から7月24日に赤磐市の露地キュウリ(穂木：TCU-093、台木：スターク)栽培圃場で実施し、両区ともダコニール1000を散布した

↓：降雨前薬剤散布日 ↓：降雨後薬剤散布日

[その他]

研究課題名：キュウリ炭疽病の多発要因の解明による総合防除技術の開発

予算区分・研究期間：交付金・令6～8年度

研究担当者：畔柳泰典、桐野菜美子、井上幸次

関連情報等：試験研究主要成果、[令7（45-46）](#)